

中小企業政策審議会金融小委員会 資料

# コロナ禍における中小企業決算への影響について

令和4年2月

一般社団法人 CRD協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-26-5 NEX人形町ビル7F  
TEL : 03-6667-1750(代表)  
FAX : 03-6667-1755

# 一般社団法人CRD協会の概要

## □ CRD : Credit Risk Database

- 中小企業者の『財務データ』『デフォルト情報』を集積する**わが国最大級の信用リスクデータベース機関**です。(企業名等は匿名化されており、個別企業名の特定はできません)
- 『**中小企業金融の円滑化**』『**信用リスク管理の高度化**』に資することを目的として、中小企業庁の発案により、全国の信用保証協会、政府系・民間金融機関の協力を得て、2001年3月設立された非営利法人です。
- 集積データから構築した高精度の信用リスク計測モデル『**CRDモデル**』、経営診断ツール『**McSS**』をはじめとした各種サービスを会員向けに提供しています。

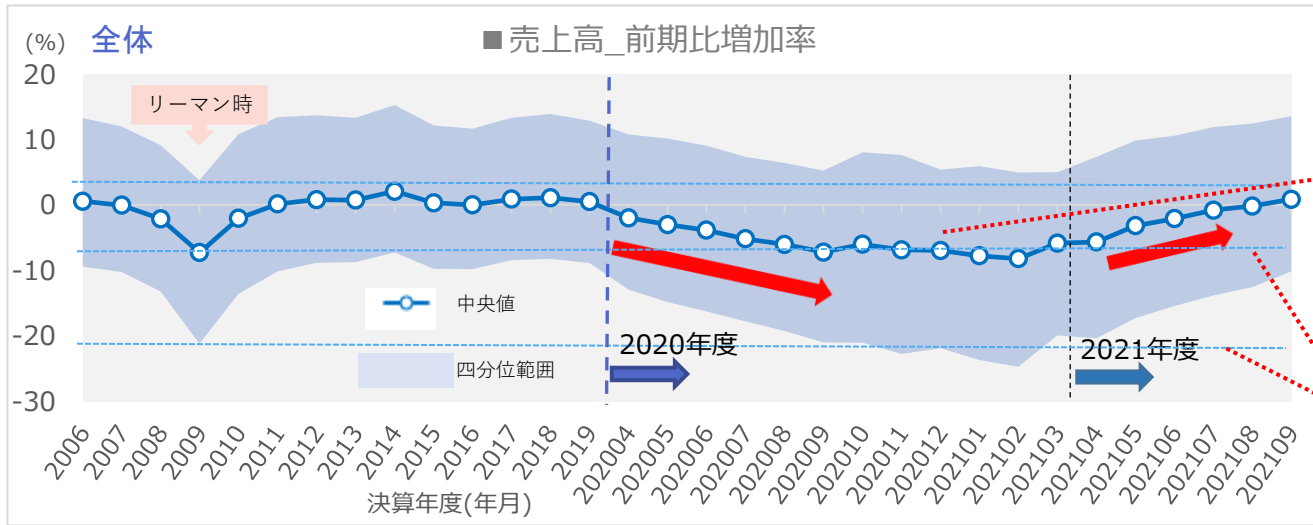
- ◆ 2006年4月より、CRDモデル3(法人)・モデル4(BSあり個人事業主)が、信用保証協会における保証料率決定に利用されています。また、後継モデルも既に開発済です。
- ◆ 集積されたCRDデータは、統計情報として、会員のほか、中小企業庁、経済産業省、金融庁、日本銀行等でもご利用いただいています。
- 直近では日本銀行金融システムレポート(2021年10月号)に、CRDデータの分析結果が掲載されています。
- 他に中小企業白書や各種政策判断における分析、各種学術研究等でも活用されています。

### 会員構成(2022年2月1日現在)

信用保証協会	51
政府系金融機関	4
民間金融機関	96
ノンバンクなど	18
合計	169

データ数(延べ)	債務者数	決算書数
法人	286.7万社	2,499.2万件
個人事業主	142.2万先	635.5万件

# コロナ禍における売上高への影響（全体/業種別・直近期比）

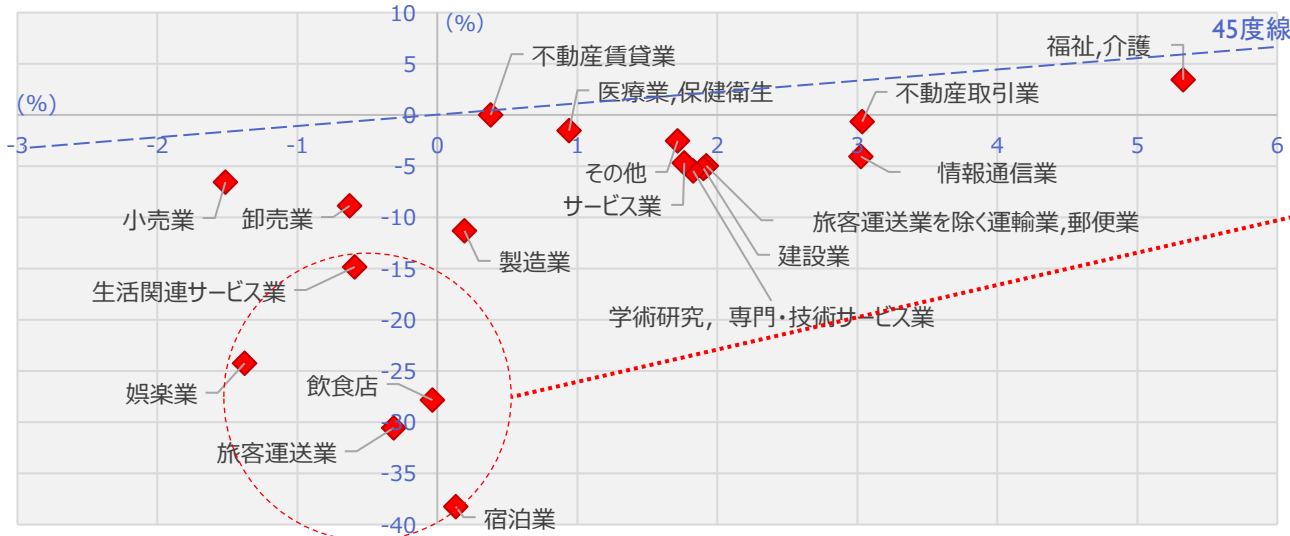


▶ 売上高\_前期比増加率(%)

$$= \frac{\text{当年売上高} - \text{前年売上高}}{\text{前年売上高}} \times 100$$

- ▶ 2020年度の決算書データは、明確な減少傾向が見られます。
- ▶ 売上高に関して、中小企業全体では、リーマンショック時並みのインパクトが窺えます。

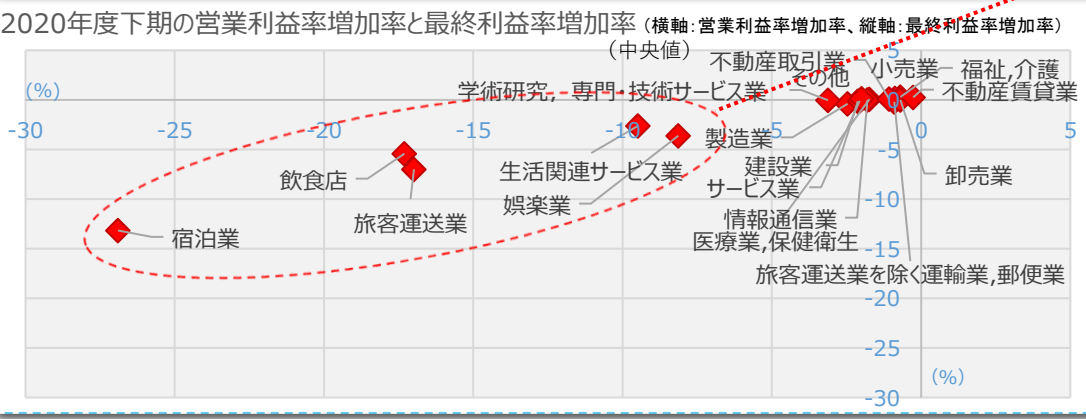
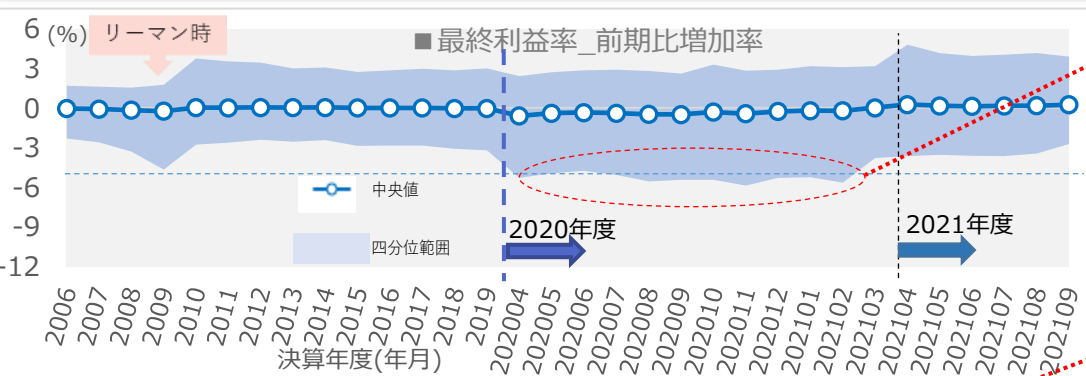
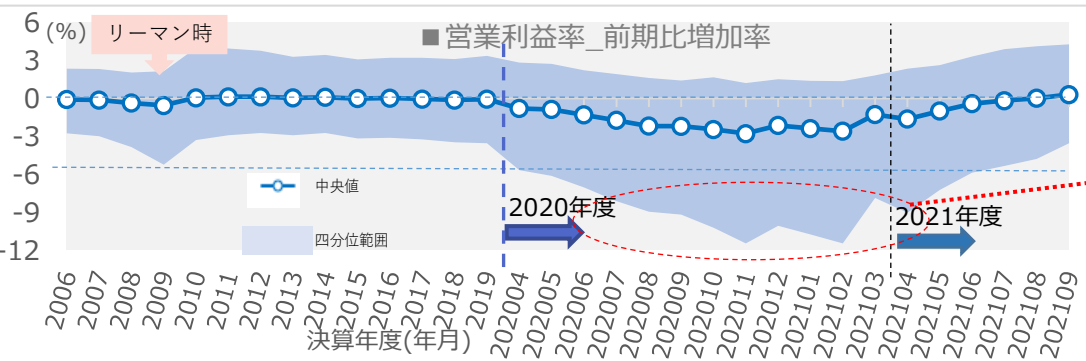
業種別・直近期比 2019年度までの過去5年間と2020年度下期の売上高増加率（中央値）  
（横軸：過去5年間、縦軸：2020年度下期）



- ▶ 売上高が過去のトレンドと比較して改善している業種はありません。
- ▶ 業種により、コロナ禍の売上高に対するインパクトは大きく異なります。

← 【厳密な定義】  
横軸：2015年度から2019年度までの決算書を対象に、各年度で売上高前期比増加率の中央値を算出し、その5年間平均値を算出。  
縦軸：2020年10月から2021年3月の決算書を対象に、売上高前期比増加率の中央値を算出。

# コロナ禍における営業利益・最終(当期)利益への影響 (全体/業種別)



- ← 【定義】
- 営業利益率=営業利益÷売上高
  - 最終利益率=最終利益(税引後当期利益)÷売上高

▶ 営業利益率(上図)に関しては、大幅に低下している先が多いことが確認されます。

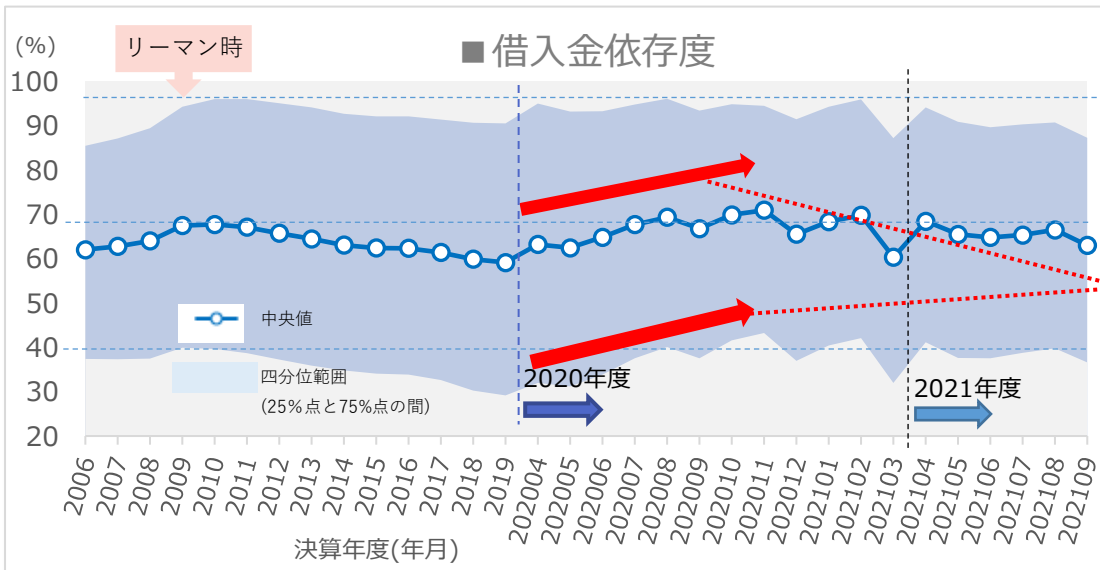
▶ 一方、最終利益率(下図)の低下幅は、営業利益率の低下と比較してそれほど大きくありません。これは、企業の利益確保努力の他、金融支援等(給付金等)の効果もあると考えられます。

▶ 売上高の減少幅の大きい宿泊業、飲食店、旅客運送業、生活関連サービス業、娯楽業は、営業利益率も前期比で比較的大きく下落しています。これらの業種は、最終利益ベースでも、前年より大きく利益を減らしています。

▶ 製造業、卸売業は、売上高は比較的大きく下落していましたが、営業利益率では下落幅が小さくなっており、最終利益ベースではほぼ前年と同水準です。

▶ 上記以外の業種に関し、最終利益率はほぼ前年と同程度となっています。

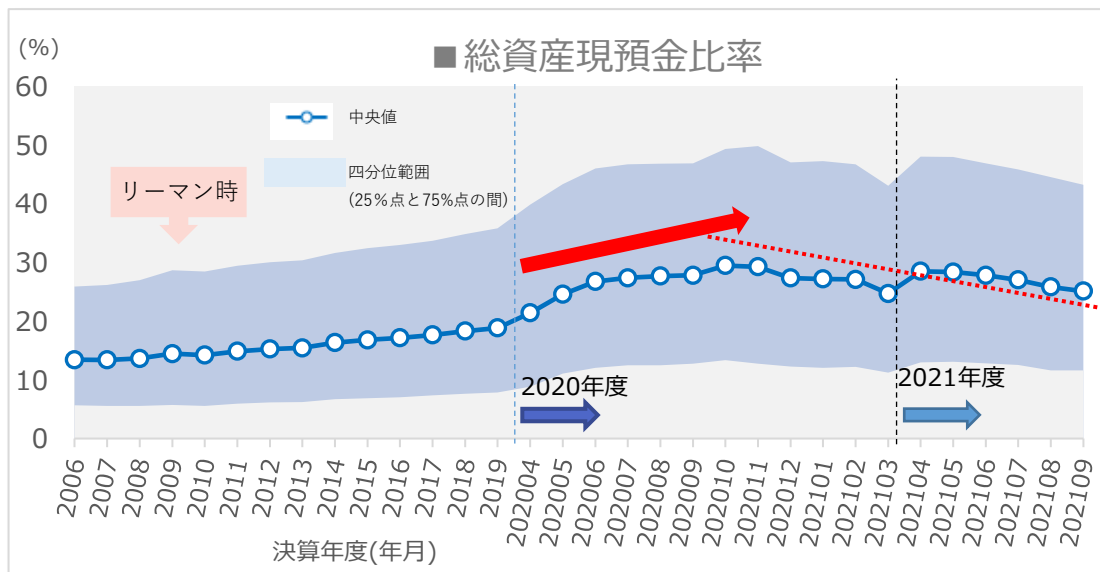
# コロナ禍における借入金および現預金への影響



▶ 借入金依存度(%)

$$= \frac{\text{長短借入金合計} + \text{受取手形割引高}}{\text{負債} \cdot \text{資本合計} + \text{受取手形割引高} + \text{受取手形裏書譲渡高}} \times 100$$

- ▶ 借入金依存度のそれほど高くなかった層において、コロナ禍では借入金依存度がリーマンショック時並みに高くなっています。
- ▶ 2020年度後半以降は借入金依存度は横這いもしくはやや低下しています。



▶ 総資産現預金比率(%)

$$= \frac{\text{現金} \cdot \text{預金}}{\text{総資産}} \times 100$$

- ▶ リーマンショック後、中小企業でも現預金を徐々に積上げる傾向が見られましたが、コロナ禍以降、更に大きく積み上がる傾向が窺えます。
- ▶ 借入金依存度と同様、2020年度後半以降は当該比率もやや低下しています。